

令和3年度
下関市立考古博物館協議会資料

令和4年（2022年）3月

資料目次

| | | |
|--------|------------------------------|-----|
| 報告事項 1 | 令和 3 年度新型コロナウイルス感染症に係る対応について | P 1 |
| 報告事項 2 | 令和 3 年度事業について | P 3 |
| 報告事項 3 | 令和 3 年度収支予算及び決算見込みについて | P19 |
| 議案 1 | 令和 4 年度事業計画について | P21 |
| 議案 2 | 令和 4 年度収支予算（案）について | P24 |

参考資料

| | | |
|-----|---------------------------------------|---|
| 1. | 令和 2 年度事業実績 | P |
| 2. | 令和 2 年度ユニバーサルミュージアムの取り組み | P |
| 3. | 文化財保護課 新型コロナウイルス感染症への対応 | P |
| 4. | 開館に伴う新型コロナウイルス感染症対策について | P |
| 5. | 新型コロナウイルス感染症対応における感染者発生時から施設再開までの対応方針 | P |
| 6. | 下関市立考古博物館体験学習実施要綱 | P |
| 7. | 令和 2 年度 修学旅行団体予約受付について | P |
| 8. | 下関市立考古博物館の概要 | P |
| 9. | 下関市立考古博物館組織 | P |
| 10. | 年間当初予算の推移 | P |
| 11. | 入館者数の推移 | P |
| 12. | 年度別実施事業の一覧（5年間） | P |
| 13. | 関係法令一覧 | P |
| 14. | 令和 3 年度下関市立考古博物館協議会委員名簿 | P |

令和3年度新型コロナウイルス感染症に係る対応について

1. 新型コロナウイルス感染症に係る動向

○令和2年度に引き続き全国的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、過去に例のない規模で館運営に多大な影響を受けたことから、適宜、対応と対策を実施。

《具体的影響》 ・ 臨時休館
・ 県外来訪者の自粛要請 など

《休館中の活動》 ・ 再開館に備えた準備作業
(その後の展示企画・講座等準備)
・ 通常開館時に着手できていなかった情報整理作業
※館蔵資料のうち、その物量の膨大さから、情報整理が途上であり、課題となっていた、図書、図書類、その他の各種データ類の整理作業など

《職員勤務状況》 ・ 職員は基本的に通常出勤
・ 下関市役所における全庁的なリモートワークの試行・推進の方針を受け、一部職員について、在宅勤務を試行
※業務連絡等については、Web 会議サービス (Zoom) を活用し適宜実施

■新型コロナウイルス感染症対応としての館対応

令和3年 (2021年)

| | | |
|------------|-------------------------|-----------------|
| 5月 21日 (金) | 職員の在宅勤務開始 (～7/15まで) | ※感染症対策の一環としての試行 |
| 5月 21日 (金) | 臨時休館の開始 (～5/31 まで) | ※全国的な感染拡大第4波による |
| 6月 1日 (火) | 臨時休館の期間変更 (～6/20 まで延長) | |
| 6月 22日 (火) | 通常開館 (再開) | |
| 8月 13日 (金) | 県外来訪者自粛要請 開始 (～9/30 まで) | |
| 8月 26日 (木) | 2回目の臨時休館 (～9/12 まで) | ※全国的な感染拡大第5波による |
| 9月 13日 (月) | 臨時休館の期間変更 (～9/26 まで) | |
| 9月 28日 (火) | 通常開館 (再開) | |
| 9月 30日 (木) | 県外来館自粛の解除 | |

令和4年 (2022年)

| | |
|------------|--|
| 1月 29日 (土) | 第5回文化財講座 (福井県立大学恐竜学研究所 今井拓哉氏) のオンライン開催 ※全国的な感染拡大第6波に伴う行動制限による |
|------------|--|

2. 新型コロナウイルス感染症への基本的対策

- 「文化財保護課新型コロナウイルス感染症への対応（令和2年5月19日改正）、
「新型コロナウイルス感染症対応における感染者発生時から施設再開までの対応方針」（文化財保護課 令和2年8月1日）にもとづき、以下の基本的対策を実施。

（1）職員の対応

- ・毎日の検温を朝礼時に実施
- ・マスクの着用を徹底
- ・定期的な館内消毒を実施
※基本的に各日の午前と午後の計2回
- ・救急時の対応マニュアルの作成

（2）来館者への対応

- ・マスク着用をお願い
- ・入館時の手指消毒を実施
- ・入館履歴カード記入をお願い
※個人情報保護の観点から、2週間の施設保管ののち廃棄
- ・修学旅行団体などの来館時に密な状況が生じないように一時的な入館規制
※10月まで

（3）環境整備のための資材配置、委託業務発注

〔購入物品〕

体温検知機能付き顔認証カメラ（※1年度内設置予定）／その他消毒液等消耗品

〔委託業務〕

受付、講堂、郷土学習室、さわる展示等への抗菌・抗ウイルスコーティング
（※1年度内実施予定）

※1 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当

3. 新型コロナウイルス感染症による博物館活動への影響

（1）調査研究業務

- ・各種研究会、研修会のオンライン（リモート）ないしハイブリッド化の促進
- ・緊急事態宣言などの影響による、県外出張制限

（2）展示業務

- ・臨時休館に伴う、企画展の会期短縮や中止

（3）博学連携、地域連携

- ・市内中学校や高等学校の職場体験の中止
- ・川中まちづくり協議会イベント「川まち弥生まつり」の中止
※令和2年度につづき、2年連続の中止

令和3年度事業について

1. 基本の方針

開館以降、四半世紀を超える当館においては、施設老朽化の問題が顕在化し、予算措置の状況から、長年の課題である大規模展示リニューアルの計画実施も容易でない。また、市全体としての人件費削減の方針が、配置職員数に対し影響が出始めており、運営上のマンパワー不足も深刻な課題となっている。

このような状況の中で、当館が地域社会における博物館施設として、その現在、及び将来における存在意義を示し、求め、期待される社会教育施設としての役割を果たすべく、戦略的な取り組みを推進する必要がある。

このことから、令和3年度の組織目標として、以下の項目を設定し、各事業ごとに、効果的な博物館活動を計画・推進することとした。

【重点目標】 「博物館活動の充実と施設の長寿命化」

【個別項目】 ①ユニバーサル・ミュージアムの推進

※見る・聞く ⇒ 5感に訴える体験型

②総合的危機管理の検討・対応

※新型コロナウイルス感染症対策・施設長寿命計画 等

③各種連携と独自性の深化

※博学・博福・博地 連携

2. 管理運営業務

(1) 長寿命化計画の策定

- ・個別施設計画を策定 ※年度内に策定完了予定

(2) 設備更新・整備 ※いずれも、年度未完了予定

- ・考古博物館休憩所「弥生の里」の空調更新
 - ※ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当
 - ※ 子育て支援施設との連携
 - 厨房部改修 → 博物館サテライト施設として整備・・・今後充実予定

【参考】子育て支援施「こどもはらっぱ」 年間利用者:約1万人

- ・クラウド型収蔵管理システム (I. B. Museum. Saas) 導入
 - ※ 収蔵品と展示解説を一体的に管理
 - 他館共用の基幹ソフトの利用により、利用者獲得の相乗効果を狙う

【参考】文化財保護課所管 指定文化財情報発信「下関の文化財」も共用予定

- ・館内抗菌・抗ウイルスコーティング (受付・講堂・郷土学習室・さわる展示)
 - ※ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当
- ・常設展示室のスポットライト照明のLED化 (古墳時代コーナー)
 - ※ 常設展示スポット照明のLED化 完了

(3) 備品購入

- ・体温検知機能付き顔認証カメラ

※ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当

(4) 設備修繕

- ・インターホン設備、監視カメラ設備、浄化槽エア管、冷却水配管 等修繕
- ・弥生の里トイレ手洗漏水 修繕

3. 調査研究業務

(1) 各種研修

| 派遣日 | 調査及び研修 | 派遣先 | 派遣職員 |
|-------------------------|---|-------------------------|----------------|
| 令和3年6月6日 | 日本ミュージアムマネジメント学会第26回大会 「社会変動の中のミュージアム」 | ※オンライン開催 | 小林 善也 藤山 佳子 |
| 令和3年8月13日 | 共創的支援を構築する視覚障害者のための3D 造形物配信・出力エコシステムの構築第4回シン ポジウムシンポジウム「触れる体験の今とこれか ら」 | ※オンライン開催 | 中山 元智 |
| 令和3年10月3日 | 子ども向けワークショップのファシリテーター 研修会 | ※オンライン開催 | 藤山 佳子 |
| 令和3年10月16日 | みんなくゼミナール -ユニバーサルミュージアムとはなにか- (国立民族学博物館) | ※オンライン開催 | 小林 善也 藤山 佳子 |
| 令和3年11月11日 ～同年11月12日 | ユニバーサルミュージアム視察研修① | 大阪市立自然史博物館・ 国立民族学博物館 | 小林 善也 藤山 佳子 |
| 令和3年11月12日 | 山口県博物館協会研修 | 山口市歴史民俗資料館ほ か山口市内 | 中山 元智 |
| 令和3年11月18日 ～同年11月19日 | ユニバーサルミュージアム視察研修② | 和歌山県立博物館・国立 民俗学博物館 | 濱崎 真二 中山 元智 |
| 令和3年11月25日 | 日本博物館協会中国支部研修会 | ※オンライン開催 | 小林 善也 |
| 令和3年 12月2日・3日・6日 | 博物館学芸員専門研修（文化庁ほか） | ※オンライン開催 | 小林 善也 |
| 令和4年1月28日 | 緊急フォーラム「文化審議会答申『博物館法制度 の今後の在り方』を読み解く」 | ※オンライン開催 | 濱崎 真二 小林 善也 |

(2) 資料調査

| 派遣日 | 調査及び研修 | 派遣先 | 派遣職員 |
|------------|-----------------|--------------|------------------------|
| 令和3年12月21日 | 綾羅木郷台地遺跡出土品資料調査 | 山口県埋蔵文化財センター | 小林 善也 中山 元智 巽 優貴 |

(3) 綾羅木郷遺跡ほか館蔵資料の整理

- ・平常展示の開催に伴う資料確認・整理
- ・グループ SYS 撮影写真 館蔵資料として整理

4. 展示業務

(1) 常設展示

① 平常展示 ※ 令和2年度より継続 (於: 特別企画展示室)

〔概要〕

- ・各企画展・特別展の会期間における展示企画
- ・過去の企画展内容をブラッシュアップした、常設展示の補足展示
- ・平成30年度の「郷台地奇譚 Episode II -綾羅木式土器の世界-」の再構成・ブラッシュアップ版

【目的と効果】

- ①常設展示内容(弥生土器(綾羅木式土器))を補完し、より深い理解を醸成
- ②パッケージ化による学芸員の負担軽減
- ③若手学芸員の人材育成

〔展示期間〕

- ①令和3年 4月 1日(水)～5月 9日(日)
- ②令和3年 6月 26日(土)～7月 25日(日)
- ③令和3年 12月 4日(土)～令和4年 1月 16日(日)
- ④令和4年 3月 5日(日)～令和4年 5月 29日(日) ※予定

② さわる展示コーナーの新設

- ・令和2年度にコンテンツを整備したハンズオンツールについて、誰もが利用できる展示ブースとするため、解説パネル、点字シールを作成

※ ハンズオンツール:

「綾羅木式土器模造品」「土器文様プレート」「土器立体パズル」

※ 点字シールの作成に当たっては、障がい者福祉団体と連携し、支援を受けた

- ・共用開始にむけて、新型コロナウイルス感染症対策として抗菌・抗ウイルスコーティング(光触媒の塗布)を実施予定
- ・抗菌処理後、常設展示の一部として公開・共用開始の予定

(2) 企画展示

① 山口県埋蔵文化財センター巡回展「発掘された山口」

〔概要〕

令和元年度(2019年)に山口県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査成果の県内巡回展 ※展示誘致 展示パッケージ展示

〔主な展示資料〕

資料点数 約350点(堀の内遺跡出土品、川東遺跡・土井敷遺跡出土品、山田遺跡出土品、見用遺跡出土品、下小田遺跡出土品、森国遺跡出土品など)

〔会期〕

令和3年(2021年)5月15日(土)～6月20日(日)

※5月21日(金)～会期終了まで本市の新型コロナウイルス感染症対策に伴い臨時休館

〔来館者〕

94名(開館日数5日、1日平均18名)

〔成果と課題〕

- ・全国的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大(第4波)により、会期激減
- ・今後も継続連携を予定。オリジナルの展示にとどまらず、県埋文によるパッケージに、当館独自のジョイント展示や意匠を組み込み、グレードアップすることが課題。

②発掘速報展「掘ったほ！下関2021」

〔概要〕

- ・令和2年度(2020年)に下関市教育委員会が実施した発掘調査成果の紹介展示
- ・加えて、博物館調査研究成果として、権現山経塚出土品の3DCGを実物資料とともに公開し、新たな研究手法とその有効性、活用の可能性を紹介
- ※ 国補助事業(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)として実施

〔主な展示資料〕

資料点数：約220点(出土遺跡：長門国府跡・長門国分寺跡、上げ安岡遺跡、安岡長久遺跡、住吉神社遺跡、有富中尾遺跡、小野地区など)

〔会期〕

令和3年(2021年)7月31日(土)～9月26日(日)

※8月26日(木)～会期終了まで本市の新型コロナウイルス感染症対策に伴い臨時休館

〔来館者〕

1,320名(開館日数22日、1日平均60名)

〔展示解説等〕

- ・3密対策として、毎金曜日、午前午後の2回、定員5名程度として予約制により企画実施
- ・会期短縮を余儀なくされたことから、展示解説動画を撮影し、公式Youtubeを活用した発信を企画

〔成果と課題〕

- ・例年の発掘調査成果とともに、令和2年度特別展「至宝しものせき—経塚とその時代—」に出展した下関歴史博物館所蔵の権現山経塚資料(経筒)について、デジタル写真から三次元計測を経て画像作成する技術を応用した新たな研究手法を、実物資料との対比により紹介。
- ・作成したデータに基づきさらに3次元造形による、当館オリジナルハンズオンツールの製作を念頭に入れており、今後の可能性についても、示す機会とした。
- ・発掘調査成果については、調査担当者の“おすすめの遺物”を抽出・紹介し、観覧者に一つのみどころを提示することによる興味の喚起を試みた。今後も、調査担当者と展示企画担当者の連携による、より効果的な展示企画が実現することが望まれる。
- ・展示解説等の動画コンテンツは、博物館活動のアーカイブ化とともに、企画事前の周知媒体としても期待されることから、その手法・内容について、研究を進める必要がある。
- ・展示解説会は、定員割れも多く、ウィズコロナにおける展示解説会の効果的な開

催手法については、検討すべき課題が多い。

③企画展「遺跡であーとー表現しよう古代のしものせきー」

〔概要〕

- ・「アート視点なら、もっと市民が考古学に親しめないか?」という企画意図
- ・応募資格は、下関市民であることのみ
- ・テーマ「下関の弥生・古墳時代」に即した作品を広く公募
- ・来館者投票により優秀作品を決定、表彰、公開
※国補助事業（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）として実施

〔会期〕

令和3年(2021年)10月9日(土)～11月28日(日)

〔作品応募総数〕

121点(うち、平面の部115点、立体造形の部6点)

〔来館者〕

1,793名(開館日数44日、1日平均40名)

〔投票者〕

345名(配布数890票) ※修学旅行等の団体への配布なし

〔受賞作品〕

平面作品の部 最優秀賞1点、優秀賞3点、特別賞1点
立体造形作品の部 最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞1点

〔副賞〕

当館職員制作のオリジナル副賞

※和同開珎・内行花文鏡 レプリカ、勾玉・管玉セット、体験学習招待券

〔成果と課題〕

①広報関係

- ・新たなターゲットの開拓のため、芸術関係市民サークル、画材店等、考古学、学校関係以外への広報を意識的に実施
- ・培われたコネクションを活かし、今後も相互に協力のメリットが得られる関係性を発展させることが課題

②作品募集

- ・作品応募の大多数が、小学校1校1学年による学校応募
- ・幅広く市民の応募を求めるために、恒例企画としての定着と、応募のモチベーションを形作るための高付加価値の実現が課題

③関連イベント

- ・事前 館内スケッチ大会、プレ展示(過去作品の展示)
- ・期間中 マンダラアート塗り絵(公募)
- ・事後 抽選、表彰

④発掘速報展「掘ったほ！下関2021改」

〔概要〕

- ・会期半ばで終了した発掘速報展「掘ったほ！下関2021」をリフレッシュ開催
- ・今年度の国補助事業「触れて学ぶ埋蔵文化財活用事業」で、市内遺跡出土品をもとに、樹脂造形により制作した「さわれる考古資料」の公開展示ブースを新設
※これにより年度当初計画の企画展「吊いのかたちー下関市の中世墓ー」は中止(延期)

〔主な新規展示資料〕

「さわれる考古資料」（3Dプリントした製品）4点 など

〔会期〕

令和4年(2022年)1月22日(土)～2月27日(日) ※開催中

〔来館者〕

210名(開館日数8日、1日平均26名) ※令和4年1月末時点

5. 教育普及業務

(1) 文化財講座

・今年度より有料講座として開催：参加費 300円

| | 演題 | 講師 | 日時 | 参加者数 | 備考 |
|-----|---|-----------------------------|-------------------------|-----------------------|--------------|
| 第1回 | 弥生土器とは何か？ ～綾羅木式土器との触れあい方～ | 小林 善也 (考古博物館) | 令和3年 4月24日(土) | 15名 午前7名 午後8名 | |
| 第2回 | 下関十二名城を語る | 中原 周一 (文化財保護課) | 令和3年 6月26日(土) | 50名 午前25名 午後25名 | |
| 第3回 | 下関十二名城を語る | 中原 周一 (文化財保護課) | 令和3年 8月8日(土) | 37名 午前22名 午後15名 | 好評につき 再開催 |
| 第4回 | 有富中尾遺跡の古墳時代集落 | 阿南 翔悟 (文化財保護課) | 令和3年 10月30日(土) | 24名 午前8名 午後16名) | |
| 第5回 | 恐竜が生まれ暮らした下関～ 卵化石と地層から推測する恐 竜時代の光景～ | 今井 拓哉 (福井県立大学恐 竜学研究所) | 令和4年 1月29日(土) | 43名 午前24名 午後19名 | オンライン 開催 |
| 第6回 | 有富中尾遺跡の中近世墓 | 阿南 翔悟 (文化財保護課) | 令和4年 2月26日(土) ※予定 | | |

※第5回講座は、遠隔地講師による初のリモート開催

(2) 体験学習

① 依頼にもとづく体験学習の実施

| | 実施内容 | 日時 | 参加者(依頼者) | 人数 |
|---|-------|----------------------|----------|-----|
| 1 | 勾玉づくり | 6月4日(金) 10:00～12:00 | 関西小学校 | 10名 |
| 2 | 勾玉づくり | 7月13日(火) 14:35～15:35 | 関西小学校 | 10名 |

※市内学校による授業の一環であるため、減免。石材も参加者調達のため、材料費の徴収なし。

※開催場所は考古博物館講堂

② 自主事業での体験学習の実施

- ・令和2年度に整理した新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、当館の自主事業としての体験学習を実施
- ・令和4年1月現在 開催回数は20回、参加者計303名

※基本的な感染対策

- ・各回定員10名、午前午後の1日2回開催、同伴者は1名のみ
- ・マスクの着用、検温、手指消毒、室内換気、ソーシャルディスタンスの励行

■体験学習実施実績

| No. | 内容 | 開催日 | 参加者 | | 会場 | 備考 |
|-----|-------------------------|--------------------|-------|-----|------------|------------------------|
| | | | 午前 | 午後 | | |
| 1 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 5月5日(水・祝) | 午前一名 | 一名 | 講堂 | COVID-19の影響で中止 |
| | | | 午後一名 | | | |
| 2 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 5月15日 (土) | 午前 6名 | 16名 | 講堂 | |
| | | | 午後10名 | | | |
| 3 | 土笛づくり (400円) | 令和3年 7月22日 (木) | 午前10名 | 20名 | 講堂 | |
| | | | 午後10名 | | | |
| 4 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 7月24日 (土) | 午前10名 | 21名 | 講堂 | |
| | | | 午後11名 | | | |
| 5 | 土器づくり (500円) | 令和3年 7月27日 (火) | 午前10名 | 20名 | 講堂 | |
| | | | 午後10名 | | | |
| 6 | 竪穴住居模型づくり (400円) | 令和3年 7月31日 (土) | 午前12名 | 21名 | 講堂 | |
| | | | 午後 9名 | | | |
| 7 | 土笛づくり (400円) | 令和3年 8月7日 (土) | 午前12名 | 21名 | 講堂 | |
| | | | 午後 9名 | | | |
| 8 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 8月10日 (火) | 午前13名 | 24名 | 講堂 | |
| | | | 午後11名 | | | |
| 9 | 竪穴住居模型づくり (400円) | 令和3年 8月12日 (木) | 午前10名 | 19名 | 講堂 | |
| | | | 午後 9名 | | | |
| 10 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 8月17日 (火) | 午前10名 | 21名 | 講堂 | |
| | | | 午後11名 | | | |
| 11 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 8月21日 (土) | 午前11名 | 21名 | 講堂 | |
| | | | 午後10名 | | | |
| 12 | 竪穴住居模型づくり (400円) | 令和3年 8月26日 (木) | 午前11名 | 18名 | 講堂 | |
| | | | 午後 7名 | | | |
| 13 | 土器文様ペンダントづ くり (400円) | 令和3年 8月28日 (土) | 午前 5名 | 12名 | 講堂 | |
| | | | 午後 8名 | | | |
| 14 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 10月16日 (土) | 午前14名 | 30名 | 講堂 | |
| | | | 午後16名 | | | |
| 15 | 土笛づくり (400円) | 令和3年 10月23日 (土) | 午前 8名 | 13名 | 講堂 | |
| | | | 午後 5名 | | | |
| 16 | 土器文様ペンダントづ くり (400円) | 令和3年 11月3日(水・祝) | 午前 8名 | 9名 | 講堂 | |
| | | | 午後 1名 | | | |
| 17 | おとな向け土器づくり (600円) | 令和3年 11月13日 (土) | 午前 1名 | 1名 | 講堂 体験広場 | 18歳以上対象 焼成日12/2 (木) |
| | | | 午後 0名 | | | |
| 18 | おとな向け土器づくり (600円) | 令和3年 11月14日 (土) | 午前 1名 | 1名 | 講堂 体験広場 | 18歳以上対象 焼成日12/2 (木) |
| | | | 午後 0名 | | | |
| 18 | 竪穴住居模型づくり (400円) | 令和3年 11月20日 (土) | 午前 2名 | 2名 | 講堂 | |
| | | | 午後 0名 | | | |
| 19 | 土器文様ペンダントづ くり (400円) | 令和3年 12月18日 (土) | 午前 3名 | 5名 | 講堂 | |
| | | | 午後 2名 | | | |
| 20 | 勾玉づくり (400円) | 令和4年 1月22日 (火) | 午前 3名 | 8名 | 講堂 | |
| | | | 午後 5名 | | | |
| 21 | 銅鏡づくり (無料招待) | 令和4年 2月22日 (火) | 2名 | | 郷土学習室 | 実施予定 「遺跡であーと」イベント |
| 22 | 銅鏡づくり (無料招待) | 令和4年 2月12日 (火) | 3名 | | 郷土学習室 | 実施予定 「遺跡であーと」関連イベント |
| 23 | 土器文様ペンダントづ くり (400円) | 令和3年 2月12日 (土) | 午前 一名 | 一名 | 講堂 | 実施予定 |
| | | | 午後 一名 | | | |
| 24 | 竪穴住居模型づくり (400円) | 令和3年 2月19日 (土) | 午前 一名 | 一名 | 講堂 | 実施予定 |
| | | | 午後 一名 | | | |
| 25 | 勾玉づくり (400円) | 令和3年 3月12日 (土) | 午前 一名 | 一名 | 講堂 | 実施予定 |
| | | | 午後 一名 | | | |
| 26 | 土器文様ペンダントづ くり (400円) | 令和3年 3月19日 (土) | 午前 一名 | 一名 | 講堂 | 実施予定 |
| | | | 午後 一名 | | | |

(3) ホームページコンテンツ

①ぶえ吉広場（おうちミュージアムとの連携）

- ・北海道博物館を発起の「おうちミュージアム」の取り組みに賛同、参画
- ・令和2年度から「ぶえ吉ひろば」を開設

(概要)

- ・いつでも、どこでも、年齢を問わず、楽しみ、気軽に当館と触れ合える場として、公式ホームページ上に開設

※不定期に新規コンテンツを追加

(内容)

- ・「点つなぎ」：人面土製品、皮袋形土器、古墳（若宮1号墳、仁馬山古墳）
※考古学の基本技術 実測を基とする

②ワークシート

- ・市内学校や修学旅行団体が館内外の展示から自主的学習を促す教材
- ・基本的に対象は小学6年生
- ・小学校低学年でも指導者のフォローがあれば取り組み可能となるよう配慮
- ・当館ホームページからダウンロードして活用可。

※感染症対策として学芸員による個別解説を休止しているための措置

今後は、学校現場のニーズ合わせて、ブラッシュアップ

(4) 考古博物館ボランティア

[概要]

- ・人材育成と体験学習等への市民参加を促進するため、平成13年度から導入
※無償ボランティア

- ・令和3年度ボランティアスタッフ登録数：10名

[おもな活動]

- ・体験学習の打ち合わせ及び当日の補助
- ・体験学習に関する館内研修
- ・体験学習に関わる備品の手入れや補修等
- ・展示用具の補修
- ・展示のチラシ、ポスターの封入作業補助

■考古博物館ボランティア活動実績

| | 活動日 | 内容 | |
|----|-------------------------|--------|--------------------------------------|
| 1 | 令和3年 4月7日 | 定例活動① | 新年度挨拶 |
| 2 | 令和3年 4月27日 | 研修会 | 土笛づくり研修 |
| 3 | 令和3年 5月15日 | 体験学習 | 勾玉づくり |
| 4 | 令和3年 5月26日 | 赤米づくり | 耕作土づくり①（土の採取） |
| 5 | 令和3年 5月27日 | 赤米づくり | 耕作土づくり②（土捏ね及びこみ除去） |
| 6 | 令和3年 6月 9日 | 定例活動② | 体験学習（土笛づくり）のための打ち合わせ |
| 7 | 令和3年 7月14日 | 定例活動③ | 夏期体験学習についての打ち合わせ アート展ポスター、チラシ封入作業 |
| 8 | 令和3年 7月22日 ～同年 8月28日 | 体験学習 | 体験5メニュー、全11回 |
| 9 | 令和3年 8月 4日 | イベント補助 | 「子どもの居場所連携交流会」（子育て政策課事業） |
| 10 | 令和3年 9月 8日 | 定例活動④ | 夏期体験学習における反省会 |
| 11 | 令和3年10月13日 | 定例活動⑤ | 下半期体験学習について 体験学習（土器文様ペンダントづくり）研修 |
| 12 | | | |
| 13 | 令和3年10月16日 | 体験学習 | 勾玉づくり |
| 14 | 令和3年10月23日 | 体験学習 | 土笛づくり |
| 15 | 令和3年11月 3日 | 体験学習 | 土器文様ペンダントづくり |

| | | | |
|----|------------|-------|-------------------------|
| 16 | 令和3年11月9日 | 研修 | 土器づくり(大人対象)① |
| 17 | 令和3年11月10日 | 研修 | 土器づくり(大人対象)② |
| 18 | 令和3年12月2日 | 体験学習 | 土器づくり(大人対象) 焼成 |
| 19 | 令和3年12月11日 | 体験学習 | 勾玉づくり |
| 20 | 令和3年12月14日 | 作業 | 竪穴住居1/2模型日干し作業 |
| 21 | 令和3年12月18日 | 体験学習 | 土器文様ペンダントづくり |
| 22 | 令和4年1月13日 | 定例活動⑥ | 展示備品(梱包用綿布団)製作 |
| 23 | 令和4年1月22日 | 体験学習 | 勾玉づくり |
| 24 | 令和4年2月10日 | 定例活動⑦ | 発掘速報展展示解説(研修) |
| 25 | 令和4年2月12日 | 体験学習 | 土器文様ペンダントづくり |
| 26 | 令和4年2月19日 | 体験学習 | 竪穴住居模型づくり |
| 27 | 令和4年3月3日 | 定例活動⑧ | 次回体験学習打ち合わせ及び年度末挨拶等(予定) |
| 28 | 令和4年3月12日 | 体験学習 | 勾玉づくり |
| 29 | 令和4年3月19日 | 体験学習 | 土器文様ペンダントづくり |

(5) 博学連携

①学校連携

- ・教職員向け情報発信(第77回わくわく教師塾)

日 時: 令和3年9月3日

演 題: 「考古博物館へのいざない～これからの博学連携に向けて～」

講 師: 濱崎館長

参加者: 28人(対面15人、Zoom13人) ハイブリッド講演

②博物館実習生の受け入れ

- ・新型コロナウイルス感染症に係る対策を講じたうえで、学芸員資格取得希望者を受け入れ
- ・博物館における実務等について指導

(実施内容)

日 時: 令和3年8月17日～21日(5日間)

実習生: 1名(桜美林大学)

内 容: 展示実習:

- ・企画展「遺跡deあーと」プレイベントの準備作業
- エデュケーション実習:
 - ・ユニバーサルミュージアムの取り組みの一環としての触察を取り入れたワークショップ体験
 - ・「勾玉づくり」のエデュケーター役を担当

■実習詳細スケジュール

| 日程 | 時間 | 実習内容 | 担当 |
|----------------|--------|------------------------|-------|
| 第1日目 (8/17) | 8:45～ | 1 来館、諸連絡 | 小林 |
| | 9:00～ | 2 朝礼及び | |
| | 9:05～ | 3 館長挨拶及びオリエンテーション(講話等) | |
| | 10:30～ | 4 館内施設及び史跡公園の見学 | |
| | 12:00～ | 5 昼休憩 | |
| | 13:00～ | 6 2日目以降の実習の説明等 | |
| | 14:00～ | 7 勾玉づくり体験の見学 | |
| | 16:45～ | 8 ふりかえり・まとめ、終了 | |
| 第2日目 (8/18) | 8:45～ | 1 来館、打ち合わせ等 | 小林・藤山 |
| | 9:00～ | 2 朝礼 | |

| | | | |
|----------------|---|--|-------|
| | 9:05～ 12:00～ 13:00～ 16:45～ | 3 展示実習（アート展プレイベント） 4 昼休憩 5 エデュケーション実習（触察体験） 6 ふりかえり・まとめ、終了 | |
| 第3日目 (8/19) | 8:45～ 9:00～ 9:05～ 12:00～ 13:00～ 16:45～ | 1 来館、打ち合わせ等 2 朝礼 3 展示実習（アート展プレイベント） 4 昼休憩 5 エデュケーション実習（勾玉づくり研修） 6 まとめ、終了 | 小林・藤山 |
| 第4日目 (8/20) | 8:45～ 9:00～ 9:05～ 12:00～ 13:00～ 16:45～ | 1 来館、打ち合わせ等 2 朝礼、移動 3 展示実習（アート展プレイベント） 4 昼休憩 5 エデュケーション実習（勾玉づくり研修） 6 片付け、まとめ、終了 | 小林・藤山 |
| 第5日目 (8/21) | 8:45～ 9:00～ 9:05～ 12:00～ 13:00～ 15:30～ | 1 来館、打ち合わせ等 2 朝礼 3 勾玉づくり体験の準備と実施（講師役） 4 昼休憩 5 勾玉づくり体験の準備と実施（講師約） 6 片付け、まとめ、館長挨拶のち終了 | 小林・藤山 |

(6) 博福連携

①NPO法人下関子ども・子育てネット「こどもはらっぱ」

- ・考古博物館休憩所「弥生の里」に入居しているNPO法人下関子ども・子育てネット「こどもはらっぱ」と連携
- ・年度を通して共同企画開催、活動協力を実施
※旧厨房部内装整備に伴い、博物館サテライトとしての利用推進

■こどもはらっぱ協働実績

| | 内容 | 実施日 | 備考 |
|---|---------------|---------------|-----------------|
| 1 | 令和3年 5月12日（水） | 赤米栽培（水洗選別作業） | 相互の職員で管理・栽培 |
| 2 | 令和3年 5月19日（水） | 赤米栽培（育苗箱） | |
| 3 | 令和3年 6月 2日（水） | 赤米栽培（田植え） | |
| 4 | 令和3年10月12日（火） | 赤米稲刈り | 「こどもはらっぱ」利用者も体験 |
| 5 | 令和3年10月14日（木） | 史跡公園古墳の森散策 | ぶえ吉参加 |
| 6 | 令和3年12月23日（木） | こどもはらっぱクリスマス会 | ぶえ吉参加 |

②こども未来部子育て政策課「子どもの居場所連携交流会」への協力

(概要・目的)

- ・子どもの居場所運営者及び関係者が、子どもの体験活動と様子をみながら、情報交換等を行う交流の場をもうけ、各団体が抱える課題解決のヒントやこれからの方向性を見定めるきっかけづくりの場とする。
- ・さらなる子どもの居場所の広がりや各団体の新たな取り組みに繋がること期す
(※所管: こども未来部子育て政策課)
⇒ 場の提供

(実施日)

- ・令和3年8月4日(水)

(体験イベント)

- ・ワークシート、火起こし体験、勾玉づくり、土笛づくり

(参加人数)

- ・100名(こども80名、おとな20名)

③パラリンピック聖火フェスティバル(採火式)

(概要)

- ・パラリンピック開催に伴う「下関の火」採火イベント
(※所管:観光スポーツ文化部スポーツ振興課)

(実施日)

- ・令和3年8月16日(月)

(内容)

- ・障害者スポーツ(ボッチャ)の紹介、凹面鏡などによる火おこし解説
- ・火起こし体験、採火
※梶栗浜遺跡出土 多鈕細文鏡・・・採火器説に触れる

(参加人数)

- ・50名
※新型コロナウイルス感染症の影響により規模縮小実施

(7) 特別観覧・資料利用並びに貸出

●特別観覧

| | 日付(許可日) | 申請者 | 資料名 |
|---|---------------|---------------|--------------------------------|
| 1 | 令和3年4月2日(金) | 島根県立古代出雲歴史博物館 | 綾羅木郷遺跡出土弥生土器・土笛 梶栗浜遺跡出土弥生土器 |
| 2 | 令和3年9月27日(月) | 株式会社プランニングアドゥ | 吉母浜遺跡出土鯨骨製アワビオコシなど |
| 3 | 令和3年10月19日(火) | 個人(学生) | 土笛 |
| 4 | 令和3年12月3日(金) | 島根県立三瓶自然館 | 下関市産恐竜卵化石 |
| 5 | 令和3年12月27日(月) | 個人(大学教員) | 弥生時代の石鎌 |
| 6 | 令和3年1月25日(火) | NHK山口放送局 | 吉母浜遺跡出土鯨骨製アワビオコシ |

●資料利用・貸出し状況

| | 日付(許可日) | 申請者 | 資料名 |
|---|---------------|---------------|---|
| 1 | 令和3年5月24日(月) | 奈良国立博物館 | 下関市立考古博物館公式チャンネル(YouTube) 令和2年度特別展「至宝しものせきー経塚とその時代ー」 展示解説動画の画像 |
| 2 | 令和3年6月17日(木) | 市民部まちづくり政策課 | ぶえ吉画像 |
| 3 | 令和3年8月16日(月) | 島根県立古代出雲歴史博物館 | 綾羅木郷遺跡出土土器(壺) 梶栗浜遺跡出土土器(壺・鉢) |
| 4 | 令和3年10月29日(金) | 株式会社新興出版社啓林館 | 下関市産恐竜卵化石 下関市産恐竜卵化石復元模型 |

| | | | |
|---|---------------|--------------|------------------------|
| 5 | 令和3年11月17日(水) | 株式会社雄山閣 | グループSYS撮影綾羅木郷遺跡関係写真 |
| 6 | 令和4年1月4日(火) | 株式会社雄山閣 | グループSYS撮影綾羅木郷遺跡関係写真 |
| 7 | 令和4年1月12日(水) | 株式会社共同テレビジョン | 吉母浜遺跡出土 鯨骨製アワビオコシ画像 |
| 8 | 令和4年1月18日(火) | 下関くじら食文化を守る会 | 吉母浜遺跡出土 鯨骨製アワビオコシ画像 |
| 9 | 令和4年1月25日(火) | 個人 | 貯蔵用竪穴のジオラマ画像 |

6. ユニバーサルミュージアムの取り組み

- ・令和2年度に実施した①ハンズオン展示品及び展示台製作、②エントランス周辺のバリアフリー化、③公式ホームページリニューアルのハード的整備の成果を踏まえ、取り組みを推進

※令和2年度 ふるさとしものせき応援基金充当事業として実施

- ・山口県立下関南総合支援学校、市民ボランティア団体（下関点訳するべの会）と連携

①考古学における触察をテーマとした授業や研修

- ・「触察とは何か」を問うことを意識した実践研究を開始
- ・下関南総合支援学校の視覚に障害のある児童、生徒、教員に、ハンズオンツール等を使用した「触察」を基本とする体験授業を実施
- ・視覚に障害のない生徒、教員に対しても同様に実施し、視覚障害者、晴眼者双方に向けた内容を整理、検討
- ・この積み重ねにより、「触察ワークショップ」を構築予定

②点訳ボランティア団体の協力による館内文字情報の点字表記の充実

- ・館内外に点字表示を充実させるための整備を推進
※表示更新のための体制整備、職員スキルアップを想定
- ・市内ボランティア団体（下関点訳するべの会）と定期的に意見交換を実施
- ・展示キャプションの点字翻訳、当館職員の点字研修を継続実施

③触察可能な市内遺跡出土遺物の模造品を製作

- ・触察可能な考古資料の増加と充実に取り組む
- ・山口県産業技術センターと連携し、当館でデジタルカメラと専用ソフトを用いて作成した点群データを3Dプリンタにより模造品を樹脂造形
※国補助事業 成果物を速報展にて展示公開
次年度以降も継続実施の予定（金属素材による造形も予定）

④さわる展示コーナーの新設

- ・ユニバーサルミュージアム元年の取り組みとして令和2年度に製作した綾羅木式土器模造品や土器文様プレートを用いた、常設の「さわる展示」の供用開始が、新型コロナウイルス感染症の影響により遅延
- ・抗菌・抗ウイルスコーティングを実施し、令和4年度早期の供用開始を目指す

7. 入館者動向

- ・コロナ災禍の影響により、入館者は激減
 - ・触察・体験型へのシフトと重なり、回復が遅延
- (1) 令和3年度及び過去2年の入館者数

●令和3年度（令和4年1月現在）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|----|----|---------|
| 入館者数 | 644 | 359 | 778 | 1,295 | 1,348 | 24 | 1,248 | 817 | 787 | 399 | | | 7,699 |
| ※ | (466) | (265) | (193) | (684) | (765) | (22) | (560) | (394) | (312) | (285) | | | (3,977) |
| 構成比 | 8.3 | 4.6 | 10.2 | 16.8 | 17.8 | 0.3 | 16.2 | 10.6 | 10.2 | 5.1 | | | 100.0 |

※ 入館者数下段の（ ）の数字は、大人の入館者数を示す。

●令和2年度実績

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 入館者数 | 90 | 71 | 593 | 567 | 734 | 1,116 | 1,271 | 893 | 511 | 293 | 656 | 599 | 7,381 |
| ※ | (45) | (56) | (323) | (368) | (460) | (431) | (534) | (440) | (312) | (235) | (510) | (458) | (4,164) |
| 構成比 | 1.2 | 1.0 | 8.0 | 7.6 | 10.0 | 15.1 | 17.2 | 12.1 | 6.9 | 3.9 | 8.9 | 8.1 | 100.0 |

※ 入館者数下段の（ ）の数字は、大人の入館者数を示す。

●令和元年度実績

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|---------|------|---------|
| 入館者数 | 1,271 | 2,295 | 1,271 | 1,303 | 1,974 | 2,286 | 2,504 | 855 | 575 | 504 | 2,642 | 36 | 17,516 |
| ※ | (637) | (1,029) | (666) | (710) | (975) | (831) | (1,125) | (578) | (438) | (404) | (1,824) | (21) | (9,235) |
| 構成比 | 7.2 | 1.01 | 7.2 | 7.4 | 11.3 | 13.1 | 14.3 | 14.9 | 3.3 | 2.9 | 15.1 | 0.2 | 100.0 |

※ 入館者数下段の（ ）の数字は、大人の入館者数を示す。

(2) 市内学校団体等の受け入れ

| R3年度 | 団体数 | 人数 | R2年度 | 団体数 | 人数 | R1年度 | 団体数 | 人数 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 4月 | | | 4月 | 4団体 | 289名 | 4月 | 4団体 | 358名 |
| 5月 | | | 5月 | 4団体 | 266名 | 5月 | 8団体 | 502名 |
| 6月 | 5団体 | 512名 | 6月 | 5団体 | 250名 | 6月 | 2団体 | 92名 |
| 7月 | 2団体 | 63名 | 7月 | 2団体 | 22名 | 7月 | 1団体 | 3名 |
| 9月 | 1団体 | 130名 | 9月 | 1団体 | 36名 | 9月 | | |
| 10月 | 1団体 | 48名 | 10月 | | | 10月 | 2団体 | 157名 |
| 11月 | 1団体 | 27名 | 11月 | | | 11月 | 1団体 | 4名 |
| 12月 | | | 12月 | 1団体 | 4名 | 12月 | | |
| 3月 | | | 3月 | | | 3月 | 1団体 | 12名 |
| 合計 | 10団体 | 780名 | | 17団体 | 867名 | | 19団体 | 1,128名 |

(3) 修学旅行団体の受け入れ

●令和3年度

| | 団体数 | | | 人数 | | |
|-----|------|-----|------|------|------|--------|
| | 県内 | 県外 | 合計 | 県内 | 県外 | 合計 |
| 6月 | 1団体 | 0団体 | 1団体 | 27名 | 0名 | 27名 |
| 7月 | 1団体 | 0団体 | 1団体 | 84名 | 0名 | 84名 |
| 10月 | 3団体 | 9団体 | 12団体 | 71名 | 413名 | 484名 |
| 11月 | 3団体 | 3団体 | 6団体 | 171名 | 158名 | 329名 |
| 12月 | 1団体 | 5団体 | 6団体 | 67名 | 336名 | 403名 |
| | 総団体数 | | 26団体 | 総人数 | | 1,327名 |

●令和2年度実績

| | 団体数 | | | 人数 | | |
|-----|------|------|------|------|------|--------|
| | 県内 | 県外 | 合計 | 県内 | 県外 | 合計 |
| 9月 | 3団体 | 8団体 | 11団体 | 103名 | 505名 | 608名 |
| 10月 | 11団体 | 10団体 | 21団体 | 363名 | 358名 | 721名 |
| 11月 | 6団体 | 2団体 | 8団体 | 372名 | 32名 | 404名 |
| 12月 | 0団体 | 2団体 | 2団体 | 0名 | 126名 | 126名 |
| | 総団体数 | | 42団体 | 総人数 | | 1,859名 |

●令和元年度実績

| | 団体数 | | | 人数 | | |
|-----|------|------|------|------|--------|--------|
| | 県内 | 県外 | 合計 | 県内 | 県外 | 合計 |
| 5月 | 11団体 | 1団体 | 12団体 | 626名 | 57名 | 683名 |
| 6月 | 1団体 | 1団体 | 2団体 | 19名 | 65名 | 84名 |
| 9月 | 1団体 | 19団体 | 20団体 | 101名 | 1,247名 | 1,348名 |
| 10月 | 5団体 | 11団体 | 16団体 | 340名 | 585名 | 925名 |
| | 総団体数 | | 50団体 | 総人数 | | 3,040名 |

(4) 刊行物

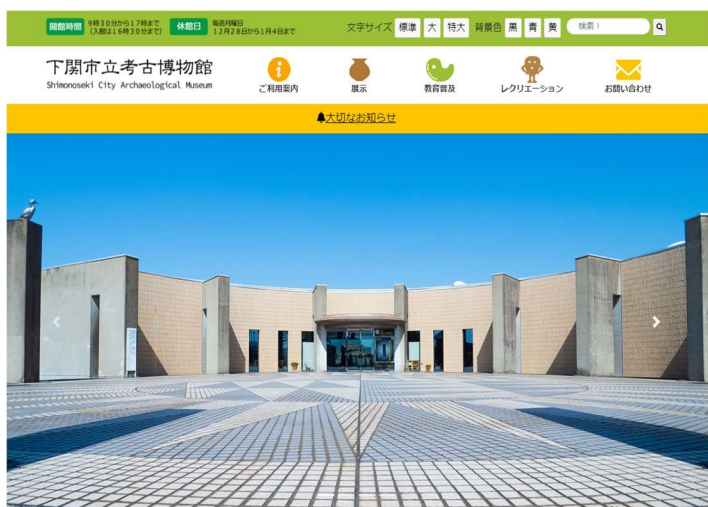
- ・『下関市立考古博物館 年報 27 (令和3年度)』
 ※平成30年度からWebによる公開へ移行(年度末に公開予定)

(5) 広報活動・情報発信

- ・展示、講座、体験学習などの開催情報は、公式ホームページ、市報、新聞各社、
 広報紙、タウン誌等の他、テレビ、FMラジオなどを用いて積極的にPR
- ・公式マスコット「ぶえ吉」フェイスブックによる情報発信を積極的に推進

①公式ホームページの活用

- ・令和3年4月1日にリニューアル
- ・令和4年1月現在の総訪問者数：10,954人(一日平均：36人)



②公式 Facebook の活用

- ・(投稿数) 令和3年4月～令和4年1月：140回
- ・(フォロワー数) 年度当初：231名⇒令和4年1月現在：330名

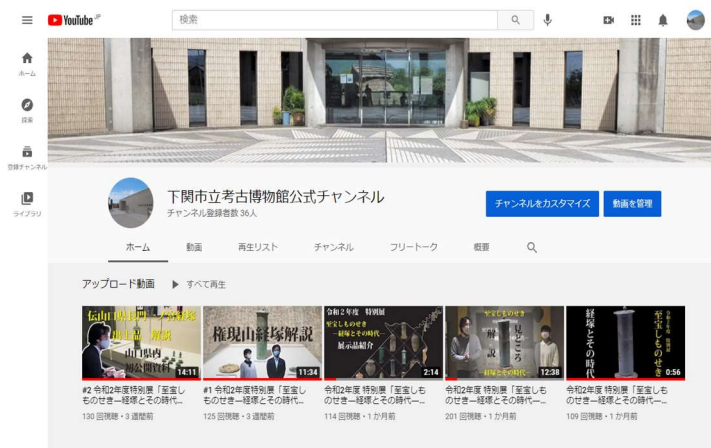
| | R3年度 | | R2年度 | |
|-----|------|----------|------|----------|
| | 投稿回数 | フォロワー数 | 投稿数 | フォロワー数 |
| 4月 | 3 | 239 (8) | 1 | 143 (1) |
| 5月 | 15 | 253 (14) | 6 | 146 (3) |
| 6月 | 30 | 255 (2) | 8 | 150 (4) |
| 7月 | 31 | 258 (3) | 3 | 159 (9) |
| 8月 | 16 | 262 (4) | 16 | 166 (7) |
| 9月 | 7 | 267 (5) | 2 | 174 (8) |
| 10月 | 7 | 292 (25) | 7 | 188 (14) |
| 11月 | 7 | 307 (15) | 2 | 202 (14) |
| 12月 | 14 | 315 (8) | 4 | 211 (9) |
| 1月 | 10 | 330 (15) | 10 | 215 (4) |
| 2月 | | | 11 | 223 (8) |
| 3月 | | | 11 | 231 (8) |
| 合計 | 140回 | 99増 | 81回 | 89増 |

※フォロワー数の（ ）は月内増加数を示す。



③公式 YouTube

- ・令和2年3月から配信を開始
- ・令和3年度は公式キャラクター「ぶえ吉」紹介動画、企画展「遺跡deあーと」イベント動画、発掘調査現地説明会動画、発掘速報展展示解説動画など、計6本の動画を公開（令和4年1月現在）



④各種広報媒体の活用

- ・市報しものせき、折り込み紙「サンデー下関」、「ほっぷ」などで体験学習や企画展等の開催情報を掲載

⑤マスコミ取材

〔新聞〕

- 毎日新聞 令和3年 5月 18日取材（発掘速報展）
- 毎日新聞 令和3年 6月 30日取材（木簡づくり体験）
- 毎日新聞 令和3年 10月 22日取材（アート作品展）
- 毎日新聞 令和4年 1月 29日取材（第5回文化財講座）
- 長州新聞 令和4年 1月 29日取材（第5回文化財講座）
- 毎日新聞 令和4年 2月 8日取材（発掘速報展〈再開催〉）

〔テレビ〕

- テレビ山口 令和3年 8月 18日取材（アート作品展関連イベント）
- J:COM 令和4年 1月 30日取材、2月4日～7日放送
（発掘速報展〈再開催〉）
- NHK山口放送局 令和4年 1月 27日取材、2月3日放送
（鯨骨製アワビオコシ）

〔ラジオ〕

- カモンFM 令和3年 8月 5日放送（発掘速報展）
- カモンFM 令和4年 1月 27日取材、1月29日放送（発掘速報展〈再開催〉）

⑤その他の周知・広報

- ・雑誌、学会誌等への積極的な投稿等による施設、資料紹介を推進
「博物館研究」vol.56号 No.12 通巻643号 表紙・館蔵資料紹介
「季刊考古学」158号 表紙・口絵

令和3年度収支決算（見込）について

令和3年度収入決算額見込は以下のとおり

- ・ 体験講座・講演及びその参加者が令和2年度より増加
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の交付を受ける見込み（310万円）

（単位：円）

| 科 目 | 予算額 (A) | 収入額 (B) | 決算見込額 (C) | 予算決算差額 (A)-(C) | 摘 要 |
|----------|------------|------------|--------------|-------------------|---|
| 使用料 | 1,736,000 | 1,591,885 | 1,736,412 | △ 412 | |
| 社会教育使用料 | 1,736,000 | 1,591,885 | 1,736,412 | △ 412 | 休憩所（弥生の里）に係る使用料等 |
| 国庫補助金 | 4,600,000 | 0 | 4,100,000 | 0 | |
| 社会教育費補助金 | 4,600,000 | 0 | 4,600,000 | 0 | 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業費補助金 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 |
| 雑 入 | 932,000 | 389,898 | 467,046 | 464,954 | |
| 実費弁償金 | 36,000 | 17,298 | 20,646 | 15,354 | 休憩所に係る水道料 |
| 図書等頒布収入 | 170,000 | 58,400 | 72,200 | 97,800 | 紀要・図録等の図書販売収入 |
| 体験講座等参加費 | 498,000 | 214,200 | 254,200 | 243,800 | 文化財講座・体験学習の参加費等 |
| その他雑入 | 228,000 | 100,000 | 120,000 | 108,000 | 自販機の売上手数料 |
| 繰入金 | 0 | | 0 | 0 | |
| 下関市負担額 | 38,710,350 | | 37,396,962 | 1,313,388 | |
| 合 計 | 45,978,350 | | 44,200,420 | 0 | |

令和3年度支出決算額見込は以下のとおり

- ・6月補正で委託料250万円計上、休憩室コロナ対策空調整備委託に充当。
- ・文化財保護費より委託料へおよそ94万円流用。コロナ対策光触媒コーティング業務へ充当。
- ・文化財保護費より備品購入費へ19万8千円流用。コロナ対策検温スタンド購入へ充当。

(単位：円)

| 科 目 | 予算額 (A) | 支出額 (B) | 決算見込額 (C) | 不用額 (A)-(C) | 摘 要 |
|------------|------------|------------|--------------|----------------|-----------------------|
| 報 酬 | 9,295,000 | 7,556,020 | 9,168,740 | 126,260 | 非常勤学芸員3名 非常勤受付案内2名 |
| 職員手当等 | 1,871,000 | 1,816,132 | 1,816,132 | 54,868 | 非常勤職員期末手当 |
| 共 済 費 | 1,711,000 | 1,367,246 | 1,640,695 | 70,305 | 非常勤学芸員3名 非常勤受付案内2名 |
| 報 償 費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 旅 費 | 310,000 | 191,460 | 242,720 | 67,280 | 先進地視察等 |
| 需 用 費 | 13,530,000 | 10,278,660 | 12,699,242 | 830,758 | |
| 消耗品費 | 1,016,000 | 1,011,943 | 1,016,000 | 0 | コロナ対策消耗品等 |
| 燃料費 | 107,000 | 43,395 | 107,000 | 0 | 公用車ガソリン 非常用発電機軽油 |
| 食糧費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 印刷製本費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 光熱水費 | 11,307,000 | 8,502,822 | 10,476,242 | 830,758 | 電気、ガス（空調用・一般用）、水道 |
| 修繕料 | 1,100,000 | 720,500 | 1,100,000 | 0 | |
| 役 務 費 | 790,000 | 639,301 | 730,547 | 59,453 | |
| 通信運搬費 | 330,000 | 247,254 | 330,000 | 0 | インターネット、電話・FAX、切手 |
| 手数料 | 419,000 | 352,000 | 360,500 | 58,500 | 浄化槽法定検査 |
| 保険料 | 41,000 | 40,047 | 40,047 | 953 | 建物火災保険料 |
| 委 託 料 | 17,134,390 | 16,104,536 | 16,614,390 | 520,000 | 施設保守・点検、その他業務委託等 |
| 使用料及び賃借料 | 1,084,000 | 1,001,954 | 1,034,954 | 49,046 | コピー機、公用車、パソコンリース |
| 工事請負費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 備品購入費 | 198,000 | 0 | 198,000 | 0 | 検温スタンド |
| 負担金補助及び交付金 | 55,000 | 55,000 | 55,000 | 0 | 日博協、日博協中国支部、山博協負担金 |
| 合 計 | 45,978,390 | 39,010,309 | 44,200,420 | 1,777,970 | |

当初予算業務別内訳 管理運営業務 30,864,000 72.9% 展示業務 2,032,000 4.8%
調査研究業務 8,766,000 20.7% 教育普及業務 678,000 1.6%

令和4年度事業計画（案）について

1. 基本的な考え方

- ①綾羅木郷遺跡史跡指定 50 周年を経て、市民の力により実現した史跡保存の精神を風化させることなく、次世代に引き継ぐとともに、計画的かつ継続的な綾羅木郷遺跡を中心にすえた調査研究を推進し、地域の歴史遺産の価値と重要性について発信する。
- ②現代社会における考古博物館の果たす役割を見極め、オンリーワンの特色を打ち出し、対外的に求められる博物館活動を推進する。
- ③調査研究・収蔵管理・展示公開・教育普及の博物館の基本機能が有機的に連動した博物館活動を醸成する。
- ④関連諸分野との連携（博学連携・博博連携・博福連携・地域連携）による博物館機能の強化・拡充を推進する。
- ⑤ユニバーサルミュージアムへの取り組みを推進し、ハード・ソフト両面で整えられた設備や実績をより確かなものとするため、これまでの成果を積極的に活用し、年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、誰もが利用しやすく、開かれた博物館活動を実践する。

2. 管理運営業務

・老朽化した設備の改修

施設建設から 25 年以上を経過し、空調設備、電気設備、防災設備などが経年劣化が深刻な状況となり、そのほかにも建物本体の老朽化が進み、補修や更新が必要となっている。そのため、優先順位にもとづいた計画的な改修を行なう。

3. 展示業務

①常設展示

- ・ハンズオン展示コーナーについて、早期に共用開始する。
- ・既設の展示について、音声解説や動画を含めた展示解説の充実、ワークシートによる学習効果の向上などのソフト的なリニューアルを進める。

②平常展の開催（各企画展の合間に開催）

- ・企画展の合間で特別企画展示室を効果的に活用するため、パッケージ化された平常展示を開催する。
- ・新設する「さわる展示」コーナーを含め、常設展示の理解を深める補完展示として、さらに機能充実を図るため、新規平常展示パッケージの企画・構想を継続的に検討する。

③山口県埋蔵文化財センター巡回展の開催（6月～7月）

- ・山口県埋蔵文化財センター監修の県内埋蔵文化財発掘調査成果の速報巡回展示。
- ・県埋文との企画調整により、展示パッケージに関連させ、地域展示の組み込みや、訴求力のある展示デザインの実現に努める。

④発掘速報展の開催（９月～１０月）

- ・例年開催の市内埋蔵文化財の発掘調査成果の速報展示
- ・令和３年度に引き続き、新規模造品制作を行い、「さわる展示」を設置
※国補助事業（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）として実施予定

⑤企画展「第２回 遺跡 de あーと～表現しよう古代の下関～」開催（１１月～２月）

- ・令和３年度に続く、第２回の開催
- ・前回の開催実績に基づき、成果と課題をふまえて、ブラッシュアップ開催
※国補助事業（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）として実施予定

4. 調査研究業務

①綾羅木郷遺跡調査研究

- 「出土品整理・分析」 ➡ 「平常展パッケージの構築」という流れを意識
- クラウド型収蔵品管理システムへの移行
 - ・収蔵品や蔵書のデータ管理をクラウド型収蔵品管理システムへ移行し、資料管理や調査研究、企画展立案、資料の貸し出し等の博物館業務の効率化

②地域の遺跡に根差した調査研究

- ・他組織所蔵の市内遺跡関係資料について、計画的に資料調査を実施し、基本資料、情報を収集・蓄積

※新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ時機に応じて対応

[対象資料]

- ・中ノ浜遺跡出土品 広島大学・筑波大学等所蔵
- ・小野忠熙氏発掘調査関係資料（綾羅木郷遺跡含む） 山口大学所蔵

③関連諸分野との連携の推進

- 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
※連携手法の検討と実践による相互の博物館機能の強化と補完
- 新潟大学災害・復興科学研究所
※遺跡の立地環境や自然災害に関する共同研究を推進
- 福井県立大学恐竜学研究所（新設恐竜学部）及び福井県立恐竜博物館
※調査連携による下関産恐竜化石に関する情報の更新
※県外連携については、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ対応

④ユニバーサルミュージアムについての研究と実践

- ・各種研修、学会、シンポジウム等に積極的に参加し、ユニバーサルミュージアム推進に必要な専門的知識及び技能の習得するとともに、その実践のための研究を深める。
⇒ 成果は研究紀要等に公表し、検証に資す。
※リモート開催など、現状の環境のメリットを最大限に生かし、積極的な参加し最新の動向や知見を深める。
- ・「触察」方法論の知見を深め、各種学校と連携し、触察を応用した、学習効果が高く、知的好奇心と学習意欲充足にも寄与するプログラムの研究・開発に取り組む

5. 教育普及業務

①文化財講座

- ・本市の人的資産である、豊富な学芸専門職員を積極的に活用し、考古学に限定することなく、歴史文化に関する「学祭的」テーマについて紹介する講座を開催
- ・当館が下関の歴史文化と市民がつながる HUB となり、その他博物館や情報資産が有機的に結びつき、市民に提供されるよう配慮する
- ・講座のテーマ設定については、企画展や特別展との相関性など、博物館活動の企画意図について来館者が理解できるものとなるよう配慮する
- ・オンラインにより遠隔地の専門家による講座開催の実現について検討を進める

②講座や体験学習と調査研究活動のバランスを意識した計画

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行なったうえで、イベントや講座、体験学習など引き続き積極的な開催に務める
- ・学芸活動の根幹をなす調査研究活動について、その時間的配慮に努める
- ・若手職員の育成について、研修参加等環境整備に努める

③子育て支援施設「こどもはらっぱ」との連携

- ・考古博物館休憩所「弥生の里」で活動する NPO 法人「下関子ども・子育てネット」との連携を継続し、多面的な博物館機能の磨き上げを推進する
- ・弥生の里のサテライト施設としての機能充実を図り、相乗効果の創出に努める

④川中まちづくり協議会との地域連携

- ・考古博物館が、災害発生時の避難場所や、多世代交流の場としての役割も期待されていることから、広く、地域住民に認知され、親しみのある身近な空間となるよう、地域団体（川中まちづくり協議会）との連携を継続して深める・住民主体との地域最大行事となる、「川まち弥生まつり」について、継続開催に最大限協力するとともに、博物館として主体的に関わるべく、参加体験学習メニューの開発等も重視する

⑤インターネットを介した情報発信の充実

- a) ホームページの最大限の活用 ※令和2年4月にリニューアル
 - ・ユーザビリティ・アクセシビリティ向上を意識し、適宜マイナーチェンジ
 - ・クラウド型収蔵品管理システムを活かし、ホームページ上で収蔵品の検索と閲覧を限定的に可能とするよう準備・検討 ※令和5年以降
 - ・来館事務手続きの効率化の観点から、各種申し込みについて、ホームページ申し込みフォームへ一元化検討
 - ※講座・体験学習参加受付、修学旅行団体予約受付
 - ※ホームページの訪問者の増加が、館の存在や博物館活動の PR に寄与
- b) SNSの活用
 - ・Facebook： 継続して安定的に運用し、考古博物館ならではの話題を発信
 - ・Twitter： 若者や子育て世代に訴求力のある媒体として活用を検討
 - ※ 媒体を使い分け、様々な世代へ当館の存在と活動に関する情報を発信
- c) YouTube の活用 ※令和2年度末より動画配信開始
 - ・動画コンテンツの製作と配信を継続
 - ・展示学習や体験学習を楽しんだり、考古学や文化財に関する知識や興味関心が深まるような魅力的なコンテンツの制作・提供に努める

令和4年度収支予算（案）について

令和4年度収入予算（案）は以下のとおり

- ・ 体験講座講演会参加費の増
- ・ 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業費補助金は、発掘速報展・触察用レプリカ関連事業へ充当

（単位：円）

| 科 目 | R4当初予算 (A) | R3当初予算 (B) | 増 減 (A)-(B) | 摘 要 |
|----------|---------------|---------------|----------------|------------------------------|
| 使用料 | 1,706,000 | 1,736,000 | △ 30,000 | |
| 社会教育使用料 | 1,706,000 | 1,736,000 | △ 30,000 | 休憩所（弥生の里）に係る使用料等 |
| 国庫補助金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | |
| 社会教育費補助金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業費補助金（補助率1/2） |
| 雑 入 | 974,000 | 932,000 | 42,000 | |
| 実費弁償金 | 36,000 | 36,000 | 0 | 休憩所に係る水道料 |
| 図書等頒布収入 | 168,000 | 170,000 | △ 2,000 | 紀要・図録等の図書販売収入 |
| 体験講座等参加費 | 650,000 | 498,000 | 152,000 | 体験学習の参加費 講演会の参加費 |
| その他雑入 | 120,000 | 228,000 | △ 108,000 | 自販機の売上手数料 |
| 繰入金 | 0 | 0 | 0 | |
| 下関市負担額 | 44,426,000 | 38,672,000 | 5,754,000 | |
| 合 計 | 48,106,000 | 42,340,000 | 5,766,000 | |

令和4年度歳出予算（案）は以下のとおり

- ・出土品の触察用金属造形レプリカ製作費を手数料に計上（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業/国補助）
- ・吸収式冷温水発生機改修費用を委託料に計上

（単位：円）

| 科 目 | R4当初予算 (A) | R3当初予算 (B) | 増 減 (A)-(B) | 摘 要 |
|-------------------|---------------|---------------|----------------|--------------------------------|
| 報 酬 | 9,389,000 | 9,295,000 | 94,000 | 非常勤学芸員3名 非常勤受付案内2名 |
| 職員手当等 (期末勤勉手当) | 1,871,000 | 1,871,000 | 0 | 非常勤学芸員3名 非常勤受付案内2名 |
| 共 済 費 | 1,795,000 | 1,711,000 | 84,000 | 非常勤学芸員3名 非常勤受付案内2名 |
| 報 償 費 | 0 | 0 | 0 | |
| 旅 費 | 310,000 | 310,000 | 0 | |
| 需 用 費 | 13,254,000 | 13,530,000 | △ 276,000 | |
| 消耗品費 | 570,000 | 1,016,000 | △ 446,000 | |
| 燃料費 | 104,000 | 107,000 | △ 3,000 | 公用車ガソリン 非常用発電機軽油 |
| 食糧費 | 0 | 0 | 0 | |
| 印刷製本費 | 0 | 0 | 0 | |
| 光熱水費 | 11,480,000 | 11,307,000 | 173,000 | 電気、ガス（空調用、一般用）、水道 |
| 修繕料 | 1,100,000 | 1,100,000 | 0 | |
| 役 務 費 | 957,000 | 790,000 | 167,000 | |
| 通信運搬費 | 301,000 | 330,000 | △ 29,000 | インターネット、電話・FAX、携帯電話、 切手 |
| 手数料 | 615,000 | 419,000 | 196,000 | 浄化槽法定検査 触察用3Dプリンター出力造形出土品 |
| 保険料 | 41,000 | 41,000 | 0 | 建物火災保険 |
| 委 託 料 | 19,036,000 | 13,694,000 | 5,342,000 | 施設保守・点検他、吸収式冷温水発生機改修 |
| 使用料及び賃借料 | 1,253,000 | 1,084,000 | 169,000 | コピー機、公用車、パソコンリース、音声ガイ ドシステム |
| 工事請負費 | 0 | 0 | 0 | |
| 備品購入費 | 186,000 | 0 | 186,000 | 3次元モデリング撮影用デジタルカメラ |
| 負担金補助及び交 付金 | 55,000 | 55,000 | 0 | 日博協負担金、日博協中国支部負担金、山博 協負担金 |
| 合 計 | 48,106,000 | 42,340,000 | 5,766,000 | |

当初予算業務別内 管理運営業務 36,435,000 75.7% 展示業務 1,527,000 3.2%
調査研究業務 9,327,000 19.4% 教育普及業務 817,000 1.7%